

ボランティア兵庫

Volunteer Hyogo



創造と共生の舞台づくり

井戸敏三

平成24年新春のご挨拶を申しあげます。9ヶ月前の東日本大震災は、全国に大きな影響を及ぼしました。被災地は、ようやく復旧復興のスタートを切りました。17年前、阪神・淡路大震災を経験した私たちに、これまで同様、これからもできる支援を続けていきたいと思います。20年になるデフレ経済、円高の長期化など経済社会にも不透明感が広がっています。また、兵庫も人口減少社会に突入しました。しかも、高齢化、少子化、地域格差の拡大を伴っています。今だからこそ、将来不安のない社会枠組を再構築し、あわせて地域個性が発揮される元気な地域づくりを進めなければなりません。21世紀兵庫長期ビジョンが見直されました。めざす将来像は、「創造と共生の舞台・兵庫」です。今こそビジョン、高い目標を持ち、これをめざして、ともに兵庫の未来を拓きましょう。

第1は、安全安心の基盤づくり。東海・東南海・南海地震や、頻発する風水害への備えに万全を期すとともに、医療、健康、福祉、食など、安心基盤を確保します。

第2は、質の高い生活づくり。若者の

自立を応援し、出会い、子育て支援を進めます。地域づくり活動を広げ、誰もが暮らしやすい社会をつくりたいです。エネルギー供給の多様化も見据えた再生可能エネルギーの活用など自然と調和した生活を拡大します。

第3は、新時代の経済社会づくり。緊急経済・雇用対策を講じつつ、先端科学技術基盤などの兵庫の強みを生かし、競争力を高め、新たな成長産業を振興します。また、TPP協定の議論を注視し、強い兵庫の「農」を育てます。

第4は、地域の元気づくり。都市と農村との交流、地域再生大作戦のさらなる展開、交流と連携を支える社会基盤の整備を進めます。国出先機関の丸ごと移管など、正念場を迎える分権改革に、関西広域連合一丸となって取り組みます。

これからも、自立と連帯、安心と活力、継承と創造を基本に、明日の兵庫を築いていこうではありませんか。

夢を持ち 夢を求める 地域こそ
我が郷土で あるであれかし



兵庫県ボランティア協会の集い

「神戸マラソン」成功めざして

ランナーの安全確保、運営協力で研修会



東北・南紀 の活動報告 「被災地に灯りを灯すために」

「兵庫県ボランティア協会の

ただきました。

集い」が昨年11月12日、芦屋市で開催されました。直前に控えた第1回神戸マラソンの研修会も兼ねたもので、マラソンボランティアの方も多数参加してい

はじめに、芦屋ボランティア連絡会の森幸子会長が「神戸マラソンは、他の市民マラソンとは異なり、走ることを通じて阪神・淡路大震災から復興したま

願いしました」と経緯を説明しました。そのうえで「ランナーの方々の事故がないよう、そして、気持ちよく走ることができるよう、がんばりましょう」と呼びかけました。

ちを感じてもらい、感謝

続いて、東北と和歌山県に2

を伝える意味があります。さらに東日本大震災の被災地や今夏の台風で大きな被害を受けた南紀への復興支援の願いが込められています」と、大会成功のため協会が協力する意義を強調し、マラソンボランティアの方々への謝意を表しました。

回づつボランティア活動に参加した赤穂市の「オアシス」の富田喜一郎代表から、それぞれの地域での具体的な活動報告がありました。中で、富田代表は「民家での作業で、家族の中で亡くなった方がいる場合は、線香を手向けています」とマナーの基本を述べ、「被災地に灯りを灯せボランティアが私の信念です」と行動理念を語られました。

また、小西康生会長は

このあと、マラソンボラン

「県内各地域から参加希望がありました。交通の便などを勘案して、瀬戸内沿岸地域を重点にお

ティアの活動準備や、当日の注意事項などについて全員で確認し、スクラムを誓い合いました。

「第1回神戸マラソン」ボランティアに参加

東北復興へ「感謝と友情」のメッセージ

「感謝と友情」をテーマに11月20日午前9時、井戸知事の号

砲とともに「第1回神戸マラソン」がスタートしました。全国から集った

約2万3千人のラン

ナーが阪神・淡路大

震災から復興したま

ちを駆け抜け、明石

海峡大橋のたもとの

県立舞子公園で折り

返し、ハーバーラン

ドなど神戸らしさあ

ふれるコースを疾

走、ポートアイラン

ドの市民広場付近で

感動のゴールをしま

した。東北被災地か

らも約640人の

ランナーが参加し、

フルマラソンを走り切ったランナーが感動のゴール



ありがとうが、エールになる。



終了時間、間際には仕事を終えたボランティアの皆さんも井戸知事と応援

「がんばろう日本」と記された緑のリボンを付けてともに走りました。

沿道では52万3千人が声援を送り、さらに6千人を超えるボランティアが沿道

整理や給水、救護活動等で運営に協力し、大会成功を支えました。

兵庫県ボランティア協会も芦屋Vティア連絡会、尼崎Vティア連絡協議会、太子町Vティア連絡協議会、赤穂オアシス、龍野Vティア連絡会より約80人が参加。青・黄色のスタッフウェアで担当地域の沿道で、応援する方々の整理、ランナーの安全確保などに当たりました。

16年前の震災から美しく甦ったまちを力強く走り、そして元気で温かい応援、ボランティアの温かいおもてなしで、国内外からの復興支援への「ありがとう」と東日本大震災被災地に勇気と希望を与える「エール」を発信しました。

井戸知事は「素晴らしい走り、多くの人の協力、応援で大成功となりました。成果を次の大会につなげよう」と呼びかけました。

平成24年1月17日(火)

ひょうご安全の日のつどい

「ひょうご安全の日」である1月17日に、阪神・淡路大震災の経験と教訓をいつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりを推進するため、「伝える」「備える」をテーマに「ひょうご安全の日のつどい」が開催されます。

1.17ひょうごメモリアルウォーク2012

阪神・淡路大震災から復興した街並みや震災モニュメントを巡り、防災意識を高めるとともに、東日本大震災においても明らかになった交通機関の途絶を想定し、来るべき災害に備えるため、緊急時の避難路・救援路として整備された山手幹線等を歩きます。

時 間 8:00~11:45

コース ①一般コース：東ルート3コース：15km・10km・2km
西ルート3コース：15km・10km・2km

②帰宅訓練コース：事業所、学校等の団体が、災害時の交通機関の途絶による徒歩帰宅を想定して、それぞれの事業所や学校からゴールのHAT神戸を目指します。途中、「災害時帰宅支援ステーション」への立ち寄りや、災害時伝言ダイヤル等を使った家族・事業所・学校への安否情報の連絡などの訓練を実施します。

1.17のつどい

阪神・淡路大震災の犠牲となられた方々への哀悼の誠を捧げるとともに、安全・安心な社会づくりに向けて歩む決意を国内外や次世代に発信します。

場 所 HAT神戸（人と防災未来センター慰霊のモニュメント前）

時 間 11:50~12:30

特別企画「東日本大震災“絆”の発信」

- 震災メッセージの募集
- 東日本大震災被災地への参加の呼びかけ
- 東日本大震災展示ブースの開設：東日本大震災被災地での支援活動報告・東日本大震災へのメッセージ・東北物品販売、観光PR
- 東日本大震災“絆”ステージ：東日本大震災復興と絆を考えるトーク&ライブ・ヴィッセル神戸監督、選手によるチャリティオークションと防災クイズ・川嶋あいミニコンサート

場 所 HAT神戸なぎさ公園（交流ひろば・ステージ等）

時 間 8:00~15:00

●問い合わせ●

ひょうご安全の日推進県民会議事務局 〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10-1 兵庫県復興支援課内
電話 078-362-9984 FAX 078-362-9876・4459 <http://www.19950117hyogo.jp/>

協会を 支えて下さる 人々

協力者ご芳名（順不同・敬称略）

平成23年7月1日～平成23年11月30日

●財政支援会員（個人・団体・正会員）

北原 昭夫／大西 きよ／麻生てい子／
 榊 努／松下 貞夫／瀬口 博子／
 片岡 寛／根岸 寿／神園 正弘／
 斎藤 貢代／長谷川康子／大日千恵子／
 木南 洋子／植原 敏行／西村 利也／
 久保 洋子／阿部 輝人／大西 英雄／
 武田 政義
 社会福祉法人曾根福祉会 母子生活支援施設 そねホーム
 あひの風

近畿医療福祉大学
 公益財団法人井植記念会
 (株)J-オイルミルズ総務部
 姫路ボランティア連絡協議会
 明石市ボランティア連絡会
 三田ボランティア連絡会
 兵庫県おもちゃライブラリー連絡会
 高砂ボランティア連絡会
 西宮ボランティア連絡会
 芦屋市ボランティア連絡会
 播磨町ボランティア連絡会
 プラス1 (ONE) ネット
 新温泉町ボランティア連絡会

古切手

兵庫県教育委員会事務局財務課
 竹田榮
 福井俊江
 株式会社ユニベック
 郵政退職者近畿共助会東播支部
 大江雄一郎

西嶋絹代
 株式会社ボンド商会
 黒田史子
 株式会社ユニベック
 鈴木みつ子
 雉子の会

●未使用切手

原田芳子

●書き損じハガキ

鈴木みつ子

●未使用ハガキ

喜多貴世子

●使用済テレカ

福井俊江

●バザー用品

鈴木みつ子

●宝くじはずれ券

株式会社ユニベック

震災支援物資

西宮ボランティア連絡会

平成23年度

財政支援会費の御願い

ボランティア活動推進にご支援賜る、平成23年度
 財政支援会費に関しまして、本年度も引き続きよろ
 しくご支援の程お願い申し上げます。

会費は個人会員1口2,000円から、団体会員1口
 5,000円からで何口でも結構です。なお、ゆうちょ
 銀行以外では下記の銀行口座（普通）への振込もで
 きます。

但馬銀行 上筒井支店

店番：339

口座番号：0464818

名義人：兵庫県ボランティア協会

会長 小西康生

ボランティア募集！

兵庫県ボランティア協会では、より充実したボラン
 ティア活動を推進するために、事務局ボランティア・事業
 ボランティアを随時募集しています。詳細は下記まで
 お問い合わせください。

・事務局ボランティア

・音声訳ボランティア

（視覚障害、発達障害児者等視覚に障害のある方の為の
 録音図書作成）

・マルチメディアデージー教科書製作ボランティア

（発達障害者のための図書）

兵庫県ボランティア協会

ボランティア兵庫編集委員会

〒650-0044

神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー6F

ひょうごボランティアプラザ気付

TEL (078) 360-8191

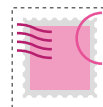
●おうちで、「書き損じはがき」と「宝くじのはずれ券」が眠っていませんか？

●バザー用品提供の御願い

兵庫県ボランティア協会では、「書き損じはがき・未投函の往復はがきの半片」や「宝くじのはずれ券」
 をご寄贈いただき、ボランティア活動推進の資金に活用する運動を展開しております。

また定期的にバザーを開催しております。用品の提供も合わせて皆さまのご協力をお願いいたします。

【御願い】年賀はがき・官製はがき・往復はがきなどは、消印のないものに限りませす。



使用済み切手をご寄贈
 いただく場合は切手の
 周囲約5mm～7mm残し
 てお切り下さい。

送り先 **兵庫県ボランティア協会**

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー6F
 ひょうごボランティアプラザ内 TEL/FAX (078) 360-8191

兵庫県ボランティア・市民活動災害共済のご案内

この共済は、ボランティア活動中、ボランティア自身がケガをした（傷害事故）、他人にケガをさせてしまった、他人の物を壊してしまった（賠償事故）などの事故に備えていただくものです。

		保険金支払金額	保険金をお支払いする場合	具体的な例		
① 傷害保険金	本人の事故	死亡	26,350千円	活動中のケガのため、事故の日から180日以内に死亡された場合	●ボランティア活動に向かう途中、車にはねられ死亡した場合	
		後遺障害	26,350千円 (限度額)	活動中のケガのため、事故の日から180日以内に後遺障害が生じた場合	●外出介助中、誤って階段から転落し、半身不随の障害を負った場合	
		医療				●給食サービス活動中、溝に落ち足を骨折した場合
		通院	1日5,000円	活動中のケガのため、通院または入院して医師の治療を受けた場合		
		入院	1日9,000円			
	手術	360千円 (限度額)	※手術の種類に応じてそれぞれ定められた倍率（10倍、20倍、40倍）×入院保険金日額をお支払いします。			
② 賠償責任保険金	対人・対物事故	対人・対物共通	5億円 (限度額)	第三者の身体に損害を与え法律上の賠償責任を負った場合	●外出介助中、誤って車いすを転倒させ、利用者を負傷させてしまった場合	
		免責金額	なし	第三者の財物に損害を与え法律上の賠償責任を負った場合	●友愛訪問活動中、訪問先の花瓶を誤って割ってしまった場合	
③ 見舞金	死亡見舞金	給付金額 100千円	活動中、ボランティア自身が死亡し、傷害保険金の支払対象とならない場合	●ボランティアの研修参加中、気分が悪くなり病院に運ばれたが、心不全で翌日亡くなられた場合		

※上記の補償内容は、平成23年度のものであります。

●掛金 1名につき500円（年度内であれば、いつでもご加入いただいても500円です。）

※掛金の内、480円は三井住友海上火災保険株式会社の「ボランティア活動保険」（傷害補償・賠償責任補償）の保険料に充当しています。死亡見舞金は、兵庫県社会福祉協議会が独自に運営しています。

●補償期間 毎年4月1日0時から翌年3月31日24時までです。

4月1日以降の加入は、受付窓口の市区町社会福祉協議会が受け付けた翌日から補償されます。

●加入対象者

- ①社協に登録された、団体に所属するボランティアおよび個人ボランティア。
- ②社協に登録された「ボランティア活動を推進している機関・団体」の役員および役員に準ずる方。

●加入方法・事故対応

- ①所定の用紙にご記入のうえ、加入者名簿および掛金を添えて、最寄りの市区町社会福祉協議会ボランティアセンターにご提出ください。
- ②事故が起きた場合には、ただちに、加入手続きをした市区町社会福祉協議会に連絡し、事故の日から30日以内に「事故届出および証明書」を提出してください。

お問い合わせ先：兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部 電話：078-242-4634

この機関誌は、ひょうごボランティア基金の助成を受けて発行しています。